

令和4年度 吹田市地域自立支援協議会 第2回全体会議 当事者会報告

—・—当事者会報告—・—

本年度活動内容

1、定例会議（資料4-2「令和4年度 吹田市地域自立支援協議会 当事者会の開催状況」参照）

—・—活動報告—・—

定例会議

本年度は、公募による委員で構成された新しい形での当事者会としてスタートしました。

定例会議はコロナ禍の中でではありましたが、委員間のスペースを広くとって感染対策をし、手話通訳やプロジェクターを使っの文字起こし表示などの合理的配慮を取り入れながら、当事者会での当事者同士の理解を進めていくことから始めました。

これまでの当事者会では、障がい者理解の推進の取組みとして出前講座を実施してきましたが、現当事者会では時期早々と判断し、見送るかたちとなってはしまいましたが、定例会とは別に雑談会をするなどをした前期となりました。

後期は前期で出し合った当事者委員からの困りごとや思いを意見にして「54」の内容を「10」のカテゴリーに分けまとめました。その中で今後の当事者会での取組む事項について、「①啓発・広報」、「②ネットワーク」、「⑩防災」を取り上げ、障がい理解を始めとする啓発広報を軸として検討し、その中で防災に関することを取り上げていくことでネットワークを広げていくこととなりました。

（資料4-3「当事者会定例会で交わされた意見のまとめ（分類別）」参照）

1年を通しては、初年度ということもあり進行に手間取ってしまい各議題に時間がかかり、司会進行を輪番にしてはとの議題もありましたが、次年度からは副会長を増員し役員間で補う事としました。また、繰り越し議案となっていた、当事者会の傍聴については3月の会議で出席者全員賛成となり次年度からの傍聴も決定しました。

障がい者の特性上、体調などで全委員そろっての会議をすることができないことが多くあり、決定事項について持ち越し議題が続くこともありましたが、会の目的や役割に沿って当事者会で取り組むことがテーマとして明確にできました。本年度、後期の当事者会からの定例会議報告は以上となります。

これらを踏まえ課題と提案を上げさせていただきます。

課題

本年度は地域会議や専門部会との連携ができておらず、地域での課題を共有することができていません。当事者会の目的である1の活発な連携を考えていく必要があります。組織体制があるにも関わらず参画ができなかったことは残念です。

しかしこの「54」の内容をみてわかるように私たち当事者は制度を知らないため生活のできていない当事者がまだまだ多くいることがわかります。

これらをどのような手段で障がいや障がい児者の理解を広めていくかを考えていかなければなりません。前年度は「当事者発の地域共生を目指して」という題材で「～こころ紡ぐ、我々と～」という事例集を発刊し各6地区の相談支援センターなどにおいてもらいました。これらも本年度最終予算の余剰で750部増刷されることとお聞きしています。この事例集も東京の八王子市の「みんなちがって みんないい」障がいのある人を理解するガイドブックのように年々違った内容でバージョンアップをさせていきたいと考えています。

また、私たちが積極的に前に出る「出前講座」も社会福祉協議会と連携し活動できるようにするにはどうすればよいか協議しています。医療的ケア児者の在宅生活、通学支援、就業時の職場内障がい者サポーター、住居の確保、親亡き後の後見人など問題は数々の各場面であります。どれをとっても大切な課題ではありますが、次年度はいつ起こるかわからない防災・減災を中心に障がい児者の避難所や避難方法を危機管理センターや福祉総務室と一緒に、進まない災害時要援護者登録制度や個別支援計画をわかりやすく広めていきたいと考えています。そのためには私たち当事者会の委員もこの「吹田市災害時要援護者避難支援プラン」を知る事の必要性があります。北千里駅前に計画されている高層マンションで地震がおこったら？ 作業所内で災害が起こったらどこに逃げる？ 家族への連絡は？家で取り残された場合？ 車いすユーザーはどんな車いすでも乗れるとは限りません！ であること、発達障がいの方、知的障がいの方、精神障がいの方、認知症者等には気持ちを落ち着かせることが必要となるカームダウン・クールダウンの場所やスペースも必要です。まだまだ地域での障がいや障がい者理解、障がい者との接点が不足しています。

事例紹介

当事者会で取り組んだ活動ではないのですが、ここで事例を一つ紹介させていただきます。現在の阪急淡路駅には2022年の5月までバリアフリートイレがありませんでした。この駅は駅ホームや駅舎も狭く、今でもトイレは階段を上り下りしていかなければいけませんでした。

2021年4月当時、電動車いすの方がトイレの場所を聞くとバリアフリートイレどころか「階段を上がっていかなければ一般トイレにも行けません」と言われたそうです。乗降客数32000人以上にもなる駅にバリアフリートイレが無いのは大問題です。この問題を阪急電鉄と話し合い、当初は構造上、この駅にはバリアフリートイレ設置は不可能とされていたところを幾度とない協議を経て、バリアフリートイレ設置に向けて動きだすことができました。当事者の意見を反映しながら、3度の図面変更が行われ、建設中の現場も内覧したりしながら、なんとたった1年数か月で(2022年5月に)バリアフリートイレが設置され経緯があります。これは障がい当事者の声の実を結んだ成果だと思います。

このように何かを決めるときには、障害者権利条約のスローガンでもあるように「私たちのことを、私たち抜きに決めないで」という理念のもと自立支援協議会も当事者会の声を反映し、私たちが地域で今何に困っているのかを着目していただき、地域会議での課題として反映し、早期解決することが重要です。

これらを踏まえ、当事者会では当事者の「理解・啓発」を重要課題とし、吹田市でのホームページや市報すいたへの当事者会の活動報告の掲載や当事者会のホームページを充実させ、市民へのアンケートの実施などもしていけたらと考えています。

最後に

この自立支援協議会での目的である「障がい児者への、自立した日常生活又は社会生活を安心して営むことができる地域社会の実現に向けて、地域における障がい児者への支援体制等に関する課題について協議し、障がい児者への支援ネットワーク体制の充実を図ること」のため当事者会で出された問題課題をこの場で出すことによって協議していただき、専門部会などが形成されていき、足らない制度が整備され吹田市にいる障がい児者の安心した地域生活につながる事を願っています。

吹田市地域自立支援協議会 当事者会

会長 福西 義信